進路について考えよう　～進路学習習慣～

１年生は、進路学習週間として「働くとはどういうことか」「卒業後の生活はどうなるか」「自分の得意・不得意は何か」などを考えたり気付いたりできるよう様々な学習を行いました。

６月１５日（木）には、進路担当の教師が「高等部卒業後の進路について」講話をしました。卒業生の様子や社会が求める人材について先輩の例などを聞き、生徒からは「自分には足りない力があったので、これから伸ばしていきたい。」「自分のことは自分でやるようにして、できないところは誰かに聞いたり助けを求めたりできるようになりたい。」といった感想が聞かれました。まずは働くことを「知る」位置づけの第一回職場実習に向け、今から取り組めることを見付けて実践していきます。

１９日（月）と２０日（火）は、先輩たちと同じように「集中作業」に取り組みました。「働く人の仕事内容・勤務時間を経験すること」「基本的なルールや言葉遣いなどの学習をすること」を目的に行いました。１日に6時間程度の作業に取り組む中で、自分の良さと課題が見えてきました。「先生のアドバイスを受けた後、すぐに実践することができた。」「紙に線を引いたりカッターで切ったりするときにずれてしまった。そうなる前に分からなければ聞けるようになりたい。」といった感想が聞かれました。今回の作業で知った自分の良さと改善すべきことを整理し、今後に生かしていきます。

２１日（水）と２２日（木）には、卒業生が勤める会社を見学に行きました。どの会社からも「働く上で大切にしていることは、毎日出勤することや、時間やルールを守ること、挨拶をしっかりすること。」という話があり、大事なことは共通しているということがわかりました。また卒業生からは「もらった給料を趣味に使っている。」「好きなアイドルのグッズを買い、ライブにも行った。」という話があり、生徒たちも熱心に聞いていました。将来の生活では、「働く」ことだけでなく、「暮らす」ことや「楽しむ」ことも充実させることが大切だということがわかったようです。

また午後には、「障害者就労・生活支援センターぼらんち」の方を招いて、卒業後の生活についての話と、それに向けたアドバイスをいただきました。信頼を得るために毎日仕事に行くこと、人間関係を築くために相手の名前を覚えることが大事であると、具体的にお話をいただきました。

この進路学習週間で学んだことを日々の生活の中で生かし、将来キラキラ輝く人生を送れるよう、生徒たちは一歩一歩自分を成長させていきます。